

長期化するコロナ禍における 学校教育の現状について

～「命・心・学び」を守る取り組み～

西宮市教育委員会事務局 学校教育部

目次

1. 教育活動について
2. 保健衛生について
3. ICT活用状況について

教育活動について

学習活動

学 習 活 動	緊急事態宣言・まん延防止等重点措置		解除後
<p>児童生徒等が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク</p>	<p>行わない。</p>	<p>「接触」「密集」「近距離」「向かい合っ」について、可能なものは避け、一定の距離を保ち、同じ方向を向くようにし、また回数や時間を絞るなどして実施する。</p>	<p>可能な限り感染症対策を行った上で、実施を検討。感染状況によっては一時的に控えるなど適切に対応。</p>
<p>近距離で一斉に大きな声を出す活動</p>			

学習活動 感染リスクが高い活動(近距離で活動する場合)

教科等	学習活動	緊急事態宣言・まん延防止等重点措置	解除後
理科	実験・観察	行わない。	可能な限り感染症対策を行った上で、実施を検討。
音楽	合唱・管楽器演奏		
図画工作、美術	共同作業等の表現や鑑賞活動		
家庭、技術・家庭	調理実習		
体育 保健体育	密集する運動・組み合ったり接触したりする運動		

「接触」「密集」「近距離」「向かい合って」について、可能なものは避け、一定の距離を保ち、同じ方向を向くようにし、また回数や時間を絞るなどして実施する。

教育活動

令和3年度

- ・小学校・中学校連合体育大会 = 中止
東京オリ・パラのため
- ・小学校陸上競技大会 = 中止
- ・学校水泳 = 中止
- ・家庭訪問 = 中止、希望制
- ・授業参観・懇談会 = 中止、規模縮小
- ・部活動 = 感染状況に応じて対応
活動を制限した部活も

令和4年度

- ・小学校連合体育大会 … 11/8
- ・中学校連合体育大会 … 11/10
- ・小学校陸上競技大会 = 感染症対策を講じて実施（規模縮小は従前からの案）
- ・感染症対策を講じながらプールを利用した学校水泳を実施
- ・家庭訪問 = 希望制等、工夫して実施
- ・授業参観・懇談会 = 分散したり、人数を限定したりするなど工夫して実施
- ・部活動 = 感染状況に応じて対応

自然学校

令和3年度

- 1泊2日+3日間の日帰り
- 5/13~6/23, 8/30~9/10 延期(20校)
- 宿泊：山東自然の家(32校)
丹波少年自然の家、国立淡路青年の家
- 日帰り：山東自然の家出張プログラムも活用
甲山自然の家、陶芸施設、
兵庫県立海洋体育館、校内等
- 1泊2日の宿泊では活動としては物足りなさがあつた。3回の日帰りの活動を企画するのにも苦慮した。



自然学校

令和3年度

- 1泊2日+3日間の日帰り
- 5/13~6/23, 8/30~9/10 延期(20校)
- 宿泊：山東自然の家(32校)
丹波少年自然の家、国立淡路青年の家
- 日帰り：山東自然の家出張プログラムも活用
甲山自然の家、陶芸施設、
兵庫県立海洋体育館、校内等
- 1泊2日の宿泊では活動としては物足りなさがあつた。3回の日帰りの活動を企画するのにも苦慮した。



令和4年度

- 2泊3日+2日間の日帰り
- 5/18~開始
- 宿泊：山東自然の家(37校)
丹波少年自然の家、南但馬自然学校
- 日帰り：校内外含め、計画中
山東自然の家出張プログラムも活用
- 2泊3日の宿泊で実施。2回の日帰りの活動が充実するように、令和3年の実績を全校へ周知した。

自然学校



令和4年度

・2泊3日+2日間の日帰り

・5/18～開始

・宿 泊：山東自然の家（37校）
丹波少年自然の家、南但馬自然学校

・日帰り：校内外含め、計画中
山東自然の家出張プログラムも活用

・2泊3日の宿泊で実施。2回の日帰りの活動が充実するように、令和3年の実績を全校へ周知した。

トライやる・ウィーク

令和3年度

・契約期間内の5日間の実施

・令和2年度中に実施したアンケートから、新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れできない事業所が21%に上がることが分かった。

・全中学校で5日間実施
各学校の実情に応じて実施する。
(契約期間の中での5日間)

・事業所を訪問しての実施はしない。

・オンラインで事業所とつながる取組みやギフト作成、ポスター作製、地域と防災・PRマップ作り

地域を笑顔にする“ひかりの実”
(苦楽園中)



地域へのギフトづくり
(甲陵中)



地域と協力して
マップ作製 (学文中)



地域の活性化につながる
ポスター配布 (深津中)



トライやる・ウィーク

令和3年度

・契約期間内の5日間の実施

・令和2年度中に実施したアンケートから、新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れできない事業所が21%に上がることが分かった。

・全中学校で5日間実施

事業所を訪問しての実施はしない。

・オンラインで事業所とつながる取組みやギフト作成、ポスター作製、地域と防災・PRマップ作り



令和4年度

・連続した5日間の実施

・令和3年度中に実施したアンケート（抽出）から、学校に協力できると回答した事業所が80%以上に上がることが分かった。

・事業所での実施

・事業所+学校での実施

- ①生徒が主体的に地域とつながり、学びに生かせる取組み。
- ②事業所等の受入先での活動を振り返ったり、まとめたりする取組み

・学校規模に応じて、全員もしくは分散させて事業所を訪問した活動を計画。

トライやる・ウィーク

令和4年度

・連続した5日間の実施

・令和3年度中に実施したアンケート（抽出）から、学校に協力できると回答した事業所が80%以上に上がることが分かった。

・事業所での実施

・事業所+学校での実施

- ①生徒が主体的に地域とつながり、学びに生かせる取組み。
- ②事業所等の受入先での活動を振り返ったり、まとめたりする取組み

・学校規模に応じて、全員もしくは分散させて事業所を訪問した活動を計画。



修学旅行

令和3年度

・全校実施

・小・義31校、中・義18校が延期して実施

- ・小・義：全校1泊2日
- ・中・義：0泊11校、1泊8校、2泊1校
- ・支援：0泊
- ・高校：3泊

・行先

小学校：広島方面、鈴鹿方面

中学校：県内（姫路、淡路島、県北等）
南信州、京都、滋賀 等

令和4年度

・全校実施

- ・小・義：全校1泊2日
- ・中・義：1泊3校、2泊17校
- ・支援：1泊
- ・高校：3泊

・行先

小学校：広島方面、鈴鹿方面

中学校：京都・滋賀、信州・北陸、
和歌山、愛知・三重 等

修学旅行



令和4年度

・全校実施

- ・小・義：全校1泊2日
- ・中・義：1泊3校、2泊17校
- ・支援：1泊
- ・高校：3泊

・行先

小学校：広島方面、鈴鹿方面

中学校：京都・滋賀、信州・北陸、
和歌山、愛知・三重 等

マスクの着用



これまで

学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル

- 1) 十分な身体的距離が確保できる場合は、マスクの着用は必要ありません。
- 2) 気温・湿度や暑さ指数（WBGT）が高い日には、熱中症などの健康被害が発生するおそれがあるため、マスクを外してください。
 - ※（中略）熱中症も命に関わる危険があることを踏まえ、熱中症への対応を優先させてください。
 - ※児童生徒等本人が暑さで息苦しいと感じた時などには、マスクを外したり、一時的に片耳だけかけて呼吸したりするなど、自身の判断でも適切に対応できるように指導します。
- 3) 体育の授業においては、マスクの着用は必要ありません。ただし、十分な身体的距離がとれない状況で、十分な呼吸ができなくなるリスクや熱中症になるリスクがない場合には、マスクを着用しましょう。

マスクの着用

令和4年5月23日

基本的対処方針変更 新規追加

（オミクロン株の特徴を踏まえた感染防止策）

2) 学校等

マニュアル等を踏まえた対応を基本としつつ、身体的距離が十分に確保できないときは、児童生徒にマスクの着用を指導する。その上で、**地域の実情に応じつつ、十分な身体的距離が確保できる場合や体育の授業ではマスクの着用は必要ないこと、気温・湿度や暑さ指数が高い夏場においては熱中症対策を優先し、マスクを外すこと等を指導する。**加えて、運動部活動でのマスクの着用については、体育の授業における取扱いに準じつつ、接触を伴うものをはじめ活動の実施に当たっては、各競技団体が作成するガイドライン等も踏まえて対応するとともに、練習場所や更衣室等、食事や集団での移動に当たっては、マスクの着用を含めた感染対策を徹底する。

保健衛生について

～感染状況と日々の取り組み～

1. 学校園における感染予防対策

① 感染源を絶つ（出席停止）

- 本人はもとより兄弟姉妹など同居の家族に発熱等の風邪症状がある場合の欠席
* 児童生徒が、濃厚接触者・行政検査対象者（ともに無症状）と同居している場合等、登校可
- 感染不安による欠席（合理的な理由があると校長が判断する場合）
- 児童生徒のワクチン接種*にかかるやむを得ない欠席及び副反応による欠席
（*ワクチン接種は任意接種）

② 感染経路を絶つ

- マスクの着用及び手洗いの徹底
- 気温・湿度や暑さ指数（WBGT）が高い日及び本人が息苦しさを感ずる場合
熱中症対策を優先しマスクを外すことを推奨 体育・登下校・部活動等
十分な身体的距離（2m以上）の確保と会話をしないなどの感染防止対策をとる

③ 抵抗力を高める

- 十分な睡眠、適度な運動やバランスのとれた食事、規則正しい生活

2. 学級閉鎖について

同一学級において、以下のいずれかに該当する場合、
原則5日間学級閉鎖を行う（日数に土・日曜日、祝日を含む）

- ① 1名の感染者と、複数の濃厚接触者が確認された場合
- ② 1名の感染者と、周囲に発熱等の風邪症状を有する者が複数いる場合
- ③ 複数の感染者が確認された場合
- ④ 1人目の感染者から原則5日の間に、新たな感染者が確認された場合

3. 自宅待機期間（出席停止）について

- ① 陽性者 10日間
 無症状で陽性となり症状が出ない場合 7日間
- ② 濃厚接触者 7日間（自宅内隔離後）
 無症状の場合は、4日目、5日目の抗原検査により陰性であれば
 5日目より登校可
 ＜濃厚接触者＝感染可能期間内に1mの距離でマスクなしで15分以上の接触＞

※教育委員会内に、保健所新型コロナウイルス感染症対策室分室を開設し
調査を行っている。

I C T 活用状況について

1. 情報発信の取り組み

家庭への連絡

- ・一斉メール配信サービス（ミマモルメ等）での保護者への連絡（学級閉鎖開始・終了時）
- ・学校HPへの該当学級への文書掲載
令和4年1月より新CMS稼働
 - ・認証ページの複数設置が可能となり、今までよりターゲットを絞った形で、きめ細やかな情報発信が可能となった
 - ・スマートフォンで閲覧が可能となった



2. 児童生徒への学びの保障

- ・タブレット・インターネット環境を活用した学習保障
学級閉鎖時のオンラインによる学習支援...R3年度に全校実施済

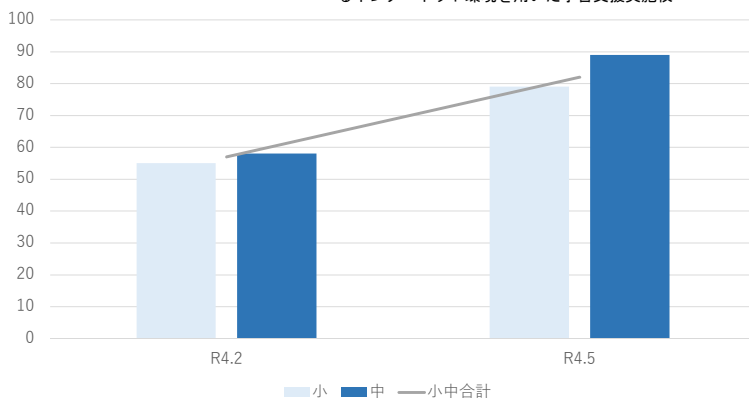
オンライン授業の様子



<授業ライブ配信 実施割合>

<比率計算方法>

ライブ配信実施校/出席停止措置となった児童生徒に対するインターネット環境を用いた学習支援実施校



<児童生徒側画面イメージ>



3. コロナ禍における校務の効率化

① 欠席連絡システムの活用

- ・ R3年度は小学校40校、義務教育学校での導入
R4年度より、中学校利用開始

効果：始業前の時間帯の電話連絡の減

児童生徒の欠席連絡状況が職員全員リアルタイムに確認できる

保護者からの意見：通勤途中などでも欠席連絡が気兼ねなくできる

② Teamsを活用した職員の連絡

- ・ 朝の打ち合わせを廃止し、全てTeams上の情報共有で代替
- ・ 担当者会など学校を超えた会合を、Teams上で実施